

TYPE OF INDUSTRY

激動の経営

金属パネル強化

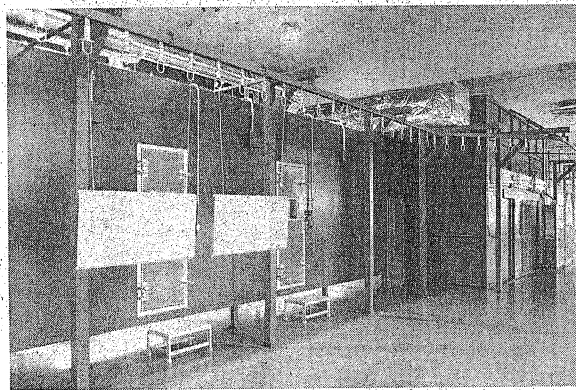
金属加工を前面に打ち出し、再スタートを切った山形メタル（山形県新庄市）。1995年に現社名となった。創立30周年を迎えた2003年。新たな飛躍の機会につながる経営統合の話がメインバンクから寄せられた。業績不振に陥った山形県内の金属外装パネルを手がける企業との事業統合を打診された。

両社の事業統合はそれぞれが独自に展開している金属外装パネル事業の統合が柱だった。先方が持つフッ素樹脂塗装技術・ノウハウと自社の持つ板金加工技術との融合による、金属パネル事業の強化が見通せた。ただ当時の山形メタルの年商5億円強に対し、先

山形メタル

③

事業統合で飛躍



方は同10億円規模。当然ながら事業統合に反対の声もあった。統合に向けて社長の庄司正人は「単に年商を拡大させるための統合は望まない」との姿勢を貫いた。

年商10億円超に

取引先をはじめ先方の良い部分を引き継ぐ路線を提示。統合に向けた準備委員会で

協議を重ね、03年10月に両社の事業統合が成立した。話を持ち込んできたメインバンクからの信頼も増した。

▲完全無機塗料を用いた建築用金属パネルの量産化試作ライン

完全無機塗料パネル量産化

統合から2年ほど経て、山形メタルは建築事業を段階的に拡大。この時点で同社の年商は10億円を超える規模に成長し、庄司の経営手腕を示すことにもなった。

自前の技術を磨き、自由に営業活動が展開できる経営環境を構築する。庄司が目指すべき会社の姿は技術面での進化を遂げようとしていた。令和に入ってから、新たな挑戦が始まった。コロナ禍、完全無機塗料を用いた建築用金属パネルの量産化技術の開発に乗り出した。

経済産業省の戦略的

中小・ベンチャー・中小政策

基礎技術高度化支援事業として避難時の安全確保を訴求する。屋外向けとしては、塗膜の劣化を抑制し、メンテナンスコストの削減を提案していく。市場開拓分野として、駅舎や商業ビル、病院、公共施設をターゲットにする構えだ。

25年以降に出荷約10年前から完全無機塗料による金属パネル開発のプロシエクトを進めてきた山形メタル。開発の指揮を執る取締役の今田弘昭は「25年4月以降に本格的な出荷を始めたい」と先をにらむ。

（敬称略）